

## 相談役が、相談されているところを見たことがない。

企業経営漫談士 岡野実空

いまや絶滅危惧種となりつつある「相談役」や「顧問」など、企業内の意味不明ポスト。これは前世紀末、その問題点を鋭く突いた、ジャパン・フワラー・ネットワーク(以下、JFN)の広告コピーです。(2000、大塚昇) 今回のコラムは、組織の上層部における「役職」とその名称について考えます。

### 視点1: 背景と真意

先行する「花キューピット」(一般社団法人JFTD)を追って1984年にスタートし、いまや全国約1300店の花屋を組織化して、生花の通信配達で活躍するJFN。その顧客は、個人のみならず、日本各地に存在する種々の法人です。とりわけ、そのトップ交代のとき、取引先や銀行などから、何とかの一つ覚えのように届く胡蝶蘭は、その商いの重要アイテム。それはあたかも水商売の開店や芸能舞台の初日を思わせ、華やかさの一方で、その儚さをそこはかとなく感じさせます。

それに引き換え、今回の主役である「相談役」や「顧問」は、一見地味なポスト。商法上の規定もなく、その役割は組織によってまちまちですが、いずれも「花より団子」の実利的な地位で、私たちに何となく古の「院政」を思い起こさせます。

### 視点2: 教訓と学習

さて今回のコピーは、組織のトップを卒業したはずの「相談役」の実態を揶揄したものだ。その名の通り、必要なときに現役世代の「相談」に乗り、さすがと思わせる「知恵」を授けるのが本来の姿です。

しかしごく一部の例外を除き、その大半は右肩上がりの時代の「脳」のまま、組織の「盲腸」となっているのが実態。じつとすれば良いものを、しばしば社内を徘徊し、現役トップに思ふような行動を取らせない重しとなって、いまの時代に相応しい戦略への転換を妨害しています。

因みに旧財閥系や重厚長大企業には、代表取締役就任時に(真の)序列が伝えられる伝統?があり、それが決して1番や2番でないという現実、歴代の現役経営者を委縮させ続けてきました。

- ◆教訓:「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」
- ◆参照コラム:『三々な経営』  
0-15 「ダメ経営人の特徴③現役/退役基準」  
『四字熟語で考える経営戦略』  
YF-3 「ヒト・その3」(患部厄員、役員後退)

さらにかつて盛んに使われた「重役」は、「取締役」や「監査役」などの総称ですが、当時の国鉄列車に準拠し、一等から三等まで内々に分けられました。またその「取締役」も、本来は株主の代表として代表取締役を監視する立場にありながら、その相手から役員昇格を恩に着せられる始末で、実は「取り締まれ役」に過ぎなかったのです。

以上のように、かつて我が国の組織上層の地位の名称と実態は滅茶苦茶。それでも何とかなっていたのは、右肩上がりの経済成長と、現場ミドルたちの奮闘のおかげでした。

### 視点3: 異論その他

ニュースです! 21年、コロナ禍による銀座の空きオフィスを活用した相談役専用サテライトオフィス誕生。一流企業各社の相談役待遇外注化を狙う。スタッフは長年銀座で高度な接遇の経験を積んだ女性を中心に。電話対応、アポ調整、郵便物・宅配便受付、打合せ専用室あり。奥様の買物中継点使用も可。有料オプションとして、話し相手、元記者による自叙伝口述筆記、服薬確認、銀座名店ランチ出前、銀座買物同行、帰宅Uber手配。

法人入会金300万円、記名式2名まで。10時~16時、フリーアドレス週2日利用で、月会費10万円、個室は別途30万円。オプションは、個人負担とのこと。

あ、ただいま情報が入りました!! フェイク・ニュースではとの事!? 確認中です。  
(竹中雄三)

いま各社で進む、「相談役」や「顧問」など、盲腸ポストの廃止。しかし自宅や社外に居場所のない元役(厄)員のために、大部屋と名刺だけは用意しましょう。その肩書は、「ご隠居」です。

2020年12月14日 実空